

平成29年度 第3回葉山町環境審議会議事録

日時：平成30年2月1日（木）14時00分～15時30分

場所：葉山町役場庁舎3階 議会協議会室1

出席者

（会長）原科 幸彦

（副会長）加藤 清

（委員）錦澤 滋雄、人見 孝、三井 修、相馬 立夫

石井 春夫委員と矢嶋 壮二委員は欠席

（事務局）伊藤 義紀、坂本 泰一、雨宮 健治、小野 卓矢

審議事項

（1）環境配慮・行動指針について

（2）その他

原科会長

予定時刻となりました。これより平成29年度第3回環境審議会を開催します。審議事項はお手元にある次第のとおり、環境配慮・行動指針について具体的な仕組み作りについて考えたいと思います。本日の出席委員について事務局からお願いします。

坂本環境課長

本日は矢嶋委員、石井委員から欠席のご連絡をいただいています。現時点での委員の出席人数は6名となっています。

原科会長

事務局からのお話のとおり、本日の出席委員は8名の委員のうちの6名です。よって出席委員数は過半数に達していますので、環境審議会規則第5条第2項の規程により、会議は成立となります。議題に入る前に、傍聴の取り扱いについて確認させていただきます。前回会議で会議冒頭から、傍聴者の方に入場していただくことになっておりますので、本日もお一人の方に入室していただいています。よろしいでしょうか。

各委員

異論なし。

原科会長

それでは議題に移ります。議題は「環境配慮・行動指針について」です。これについては資料を用意していただきましたので事務局から説明していただきます。

小野主任

よろしくお願ひします。お手元の「平成 29 年度 第 3 回環境審議会」【HP 配布資料 資料 1 として掲載】という資料を使ってお話をさせていただきます。まず、1 ページに前回第 2 回までのまとめを記載しています。

◆ 1 ページ

第 1 回審議会では「環境問題が身近でない」「環境保全に対する取り組みに参加しにくい」という課題に対し、日常生活の身近な問題を通じ、環境問題に対する興味・関心を醸成するような、教育やきっかけ作り、環境保全に対する取り組みに子どもから大人まで簡単に参加できるような仕組みが必要ではないかという話になりました。

第 2 回審議会では、現状、葉山町には上記のような仕組みや、簡易アセスメント（簡単な環境配慮の仕組み）がないので、町が率先して周囲に環境配慮の見本を示し、アピールしていく必要があるのではないかという、委員の方からのご意見がありました。それを受けて、事務局から「葉山町が考える環境配慮」についての具体的な仕組みを提示できればと考えているというお話をさせていただきました。

今回の第 3 回審議会を迎えるにあたり、事務局側でこの具体的な仕組みについて考えてきました。ただ、その仕組みをご提示する前に葉山町が置かれている現状について触れておく必要があると思います。続いて 2 ページをご覧ください。

2 ページ

【現状・課題】というところで葉山町の現状と、葉山町民の現状について触れています。両者とも立場は違いますが、お金・時間・人に余裕が無いという状況は共通しています。このような現状の中、環境に対する意識・配慮というのは、生活の中で二の次三の次というのが実情だと思いますし、何か取り組みをするにしても堅苦しいものや面倒なものは継続しづらく、疎まれる傾向にあると思います。

では、どのような仕組みであれば、町にも町民にも無理なく・負担なく、受け入れられ、持続性のある取り組みに出来るのでしょうか？それは今あるもの（既存の業務・生活スタイル等）に溶け込むような簡単で、金銭的・時間的・人的負担のない取組みが望ましいと思います。それは具体的にどのような取組みなのか、環境課としてどのような取組みができるのかというところで 3・4 ページに移ります。

3・4 ページ

「葉山町環境配慮宣言（仮）」という形で、勝手にこの取組みの名前を付けさせていただきました。少し大げさな印象を受けるかもしれませんが、日常生活の中に目を向けると「環境にやさしい素材を使っています。」「この用紙は再生紙を使っています。」などいたるところでたくさんの環境に気を使っています、配慮していますというメッセージに気づくと思います。こうした取組み・メッセージは様々な場所や、企業・団体で行われているものだと思います。同様に葉山町も一事業者として今までやっていた当たり前のようなことでも積極的に周りに配慮しているということを目に見える形にして発信していこうという取組み

です。つまり、予測・評価・公表という環境アセスメントの基本の「き」を環境課自らが実践して、外部に向かってその姿勢を発信していこうとする取り組みです。来年度以降、まずは試験的に環境課が行う業務・イベントから積極的に環境配慮を実践し、外部にその取り組みを発信していこうと思っています。

では、環境課の業務・イベントの中でできることとは何なのか。今月の2月24日に行われるくるくる市を例に考えてみました。3ページの図と4ページの写真をご覧になりながらお聞きください。

予 測

まずくるくる市を行う前に、「こんなことがありそうだ」という予測をします。「残った商品が大量の廃棄物になってしまうのでは」とか「大量の車が押し寄せることで周辺の住環境を損なうのでは」などといったことが事前に予測できると思います。

評 価

その予測をした内容に対し、評価・吟味を加え、「じゃあ、こうしてみよう」という対策を考えます。「提携するリサイクルショップに持っていこう」「車の案内係りを増員してみよう。でも拡声器の音量は低めにしよう。」などといったことが考えられると思います。

ただ、こうした事前に予測をして、対策を考えるということはすでにやっていることが大半だと思います。しかし当たり前、無意識にやっているようなことでも積極的に形にして発信していく。それがこの取り組みのポイントです。

公 表

そして環境課が事前に予測をして対策を考えた、その過程と結果について「皆さんどう思いますか？」という風に目に見える形やメッセージとして発信し、周囲の方々へ投げかけをします。反応が無いまま終わってしまう可能性もありますが、水面下で「なるべく人が集中しそうな時間帯は避けようかな」という配慮をしてくれる方が中には出てきてくださるかもしれない。環境課からのメッセージが、周囲の環境へ配慮することを考えるきっかけになるかもしれない。そうした効果があることを希望しています。

配慮行動

公表した結果、反応がある・なしにかかわらず、それらをふまえて「やってみました」行動してみましたという形になります。結果的に町も町民も目立った問題も無くスムーズなイベント運営ができました、というのが理想です。5ページをご覧ください。

5 ページ

先程申し上げたように、世間ではこうした画像にあるとおり、当たり前のようなことでも積極的に「周りの環境に気がついています」というメッセージや訴えかけがなされています。葉山町も一事業者として周りに気がついている、配慮しているということを形にして発信していこうと思っています。6ページをご覧ください。

6 ページ

こうした取組みが上手くいけばというお話です。「理想の将来像」ですが、

環境課の取組みをきっかけに、他課も含めて全庁的に環境配慮宣言の取組みが行われる

取組みは、行政・町民・事業者を巻き込んだ、全町的なものとなり「みんなでやる」「簡単な」「たかさんの」アセスメントが葉山町内で行われる

葉山町環境基本条例・葉山町環境基本計画に記載されているように、行政・町民・事業者が「公平な役割分担」のもと「自ら積極的」な環境配慮が行われる

ということを理想としています。最後に 7 ページをご覧ください。

7 ページ

長くなりましたので、最後に今までの話を整理します。まずは環境課が主体となり環境配慮の取組みをやってみます。ゆくゆくは「全庁」「全町」的な取組みにしていきたいと思えます。「みんなでやる」「簡単な」「たかさんの」小さな配慮行動、アセスメントが葉山町内で行われることを期待しています。ハードルをがくっと下げたことでたかさんの配慮行動や小さいアセスメントが行われるようになる、それらが積み重なる。これが葉山町の考える「ミニアセス」です。

ということで、事務局から環境配慮の仕組み・取組みについて提案させていただきました。こちらをベースに自由な意見交換をしていただければと思います。私からは以上です。

原科会長

ありがとうございました。今事務局側から具体的なアクション、こうしたらどうかというご提案をいただきました。この件議論したいと思えます。先程の資料の 3 ページに葉山町環境配慮宣言（仮）とありますが、これはコミュニケーションを促進する仕組みと考えていただいて良いと思えます。町民のみなさんと町役場のコミュニケーションを促進する、ということで葉山町が環境配慮をしているということをお伝えするということです。予測、評価（ここでは対策まで考えていただけてますが）その後公表する。この公表が一番大事です。その後、配慮行動をやってみる。「先ず隗より始めよ」ということで環境課からやるということで。いかがでしょうか。

三井委員

環境課で行うイベントはある層には浸透していますが、集まってみると同じ顔ぶれということが多いです。今やっていることを公表・宣伝するだけでそんなに変わるのでしょうか。

坂本環境課長

環境課で様々なイベントを運営する上で、小さなことから環境に配慮していくという姿

勢を環境課から周りにお示ししたいと思います。また、より多くの方々にイベントに来ていただけるように広報活動等も考えていきたいと思います。

伊藤環境部長

ご心配いただいているのは、環境に対し興味を持ってもらうことが難しいのではないかとということだと思います。以前、葉山町の第4次総合計画を作成した際に、町民の方々と協働で出来る事業の洗い出しをしたことがあります。この総合計画はすべてのページに協働でできることが記載されていて、まちづくりは主役が町民の方々、行政は後方・側面からの支援をするものとして位置づけられています。今回くるくる市を例に挙げ、環境課が主体になり、このように考えたいみなさんにご説明させていただきました。様々な町内のイベント・行事でも取り組めるのではないかと思います。環境課が行うくるくる市での取り組みに対し、「こうすればもっと良くなるのでは」というような意見が出てきて、それをふまえることで納得のいくイベントになりました、ということの情報開示がとても大事だと思います。やる前とやってみた後の状況を対比してみて、「少しずつ変わりつつあります」「もっとこういう風に変えていきたいと思います」ということが出てくるかと思っています。そうしたことをやることで気づきがなかった状態から、何か改善することを考えるきっかけ作りをまず我々が試してみる。それを外向けに発信して、そんな取り組みをしてみませんかというように各課にまいていく。それはホームページや広報紙で発信していくというやり方をして町役場主催のものだけではなく、地域で行われている催事についても巻き込んでやっていきたいと思っています。環境課のイベント内だけだと、どうしても内容が偏りますので、町内のちょっとしたイベントにもこの仕組み・取組みを差し込んでいき、全町的に様々な人の営みに対して浸透していくような、ランドマークになるようなことをやってみたいと考えています。ですので、徐々に裾野を広げていきたいという思いがあります。

原科会長

まずできることをやるということですね。ポイントはコミュニケーションの促進だと思います。情報をできるだけ開示して、これを葉山町の新しい文化にして他の部署もどんどん情報開示していただいて、どんな風に環境に配慮したのか説明責任を果たしていく、その第一歩だと思います。すごく大事なことだと思います。

伊藤環境部長

以前、錦澤委員からもイベントを開催する前にリマインドがあると良いという話しをしていただきました。それに加えて、イベントを実施した後にこういうことをやってみました、そしたらこんな風になりましたというのをリマインドからつなげていきたい。以前はこうだったけど、取組みをしたことでこう変わりましたということをお知らせの一環に

加えていきたい。少しずつ、すべての方に意識を醸成していくきっかけになればよいと思います。

原科会長

最初から複雑なものを対象にすると大変なので、まずはみんなが大丈夫と思っているものでもここまで配慮をしているという工夫をしていただきたい。ポイントは情報公開です。説明責任を果たすことが大事です。

伊藤環境部長

何かイベント・行事を行った後に反省して、課題や改善策について話し合うことが必要です。その一環として、こうした取組みができるとう良いと思います。具体的な内容や、進め方については思索中なので、今後ご意見いただければと考えています。

原科会長

経験を積むと効果的なやり方が見えてくると思います。記録を取って、公表して、保存する。情報公開の基本ですね。

伊藤環境部長

先程話しにあった、くるくる市ですが、課題や改善点もまだ多く見受けられます。開催後に課題や改善点を一覧としてまとめ、第4回審議会において、それについてどう考えたらいいでしょうかという話し合いが出来れば良いなと考えています。

原科会長

まさにP D C Aサイクルですね。

錦澤委員

公的な主体が関与する取組みの中でこういう風な制度を設けていくのは、方向性としてはいいのではないかと感じました。環境課の中から取組みを始めるということでしたが、どういうイベント・業務が対象になるのか整理したほうがいいかもしれません。全部というのは大変でしょうから、特にどういったイベント・業務にこの仕組みを適用していくのがいいのか考えていく必要があるかなと思いました。具体的に、対象となる業務というのはどういったものが考えられるのでしょうか。

雨宮環境課長補佐

先程のくるくる市のようなイベントも含め、一例を挙げると緑地管理ということで緑地伐採などがあります。通常は苦情などに対応するためですが、周辺の自然環境に影響が出

る可能性を考慮して伐採等の計画をできるかどうかは今後課題かなと思っています。また、全庁的な環境への取り組みというのは今までもありましたが、形骸化しているものの中にはあります。来年度以降、試行錯誤しながら、ゆくゆくは全庁的に何かしら取り組んでもらえると良いかなと思います。公共工事などについても少し配慮した上で、公表してから実施するという流れが出来ると良いと思います。

錦澤委員

行政の施策評価的な、そこまでかっちりしたものではなく事後チェック的なものが出来れば面白いですね。

雨宮環境課長補佐

イベントのある課題に対し改善を行う際、事前にこういう理由で、こう変えたというのをお話できると中にはなんらかの配慮をしてくださる方も出てきて、イベント自体がより良い方向へ向かうかもしれません。そのような取り組みを小さいところから進めて、みなさんが自然に出来るものになっていくと理想です。その段階を経て、さらに上の方に進めれば良いと思います。来年度以降、環境課の業務・イベントの中でどのようにあてはめていけるかトライしてみたいと思っています。

伊藤環境部長

町内のごみ問題へ取り組む中で、町民の方々の意見・反応を参考にさせていただく機会がありました。皆さんの意見・反応を有効活用することで、より良い取り組み・仕組みができるのかなと思います。

原科会長

情報公開するだけでなく、町民の方からのリアクションを得ることで、場合によっては計画の軌道修正があるわけですね。

伊藤環境部長

次回の審議会までに、部内の行事・事業と内容を一覧表としてまとめてお示ししたいと思います。

人見委員

環境課から発信する指標を、環境課内部だけで作ってしまうと、町民のご意見が見えなくなってしまう可能性があります。ですので、指標を作る際に町民のご意見を上手く吸い上げられるような仕組みをご検討いただきたいと思います。

相馬委員

資料の3ページにあるように、考え方を変えることで大きな流れを徐々に変えていけるというのはとてもおもしろいなと思います。皆さんも日々の生活の中で、なんらかの発見を実はしていると思います。スマートフォンで言えば、アプリケーションのように小さなものですが、今までやっていたものを少し変えられるというのを積み重ねていって共有していくことで気がつくと大きく変わっていくということがあると思います。アプリケーションを応募するような形で、みなさんのアイデアやちょっとした発見を送ってくださるかという募り方をして、それを例えば「〇〇賞」のような形で表彰してみたりする。それを受けて「もっと頑張ってみよう」「いや私はこんなことをやっている」といった、重なりみたいのが出てきたら面白いのではないのでしょうか。「環境配慮宣言」だと普通というかあまり面白い感じはしないので、取組みへの名前・言葉を一つ考えるだけでも応募してみようかなという気持ちになると思います。後はちょっとほめてみるような、勢いが出るような仕組みを作ると色々な人が色々な知恵を出してすごいことが起きそうな気がしました。この資料を読んでいて面白いなと感じました。

小野主任

相馬委員がおっしゃられていたようなことができれば良いなと思いました。あとは、イベントだけではなく、例えば日常業務の中で窓口にいらっしゃった方に、環境課は今こんな取組みをやっているから町民の方からも一言何か宣言をいただけないか、つぶやいてもらえないかをお願いをするなどして、小さい瑣末なことでも積み重ね、たくさんの配慮宣言がなされるようにできれば良いなと思います。それらを最終的に動画なり画像なり何か一つの形にまとめて、発表できれば面白いかなと思いました。

三井委員

配慮「宣言」だと言っておしまいという印象を持たれてしまうかもしれません。言ってみる、やってみるまで、行動するまでを取組みの名前の中に謳えないのでしょうか。

原科会長

配慮「行動」宣言なんかいいかもしれませんね。

坂本環境課長

「環境配慮宣言」という名称で決定ではないので、委員の皆様から「こんなのどうですか」というようなご意見をいただきたいと思います。

伊藤環境部長

町の広報活動もやわらかい、少し砕けた表現を使うことで親しみを持ってもらいやすく

なったということがあります。もう少しみんなで取り組めるような堅苦しくないネーミングだといいかもかもしれませんね。

原科会長

他に何かありますか。

小野主任

お示した取組み・仕組みですが、来年度以降やっていく中で必ず課題や改善点が出てくると思います。それについて事務局で考えるのはもちろんですが、委員の方々からも随時ご意見と知見をいただきたいと思います。より実効性のある効率の良い仕組みを考えていきたいと思いますので、来年度以降もぜひ見守っていただけたらと思います。

原科会長

具体的にいつからやりますか。今月（2月）のくるくる市からでしょうか。

伊藤環境部長

2月のくるくる市に関しては、これが困っていますということを箇条書きにして出します。また、次回の審議会の際に、環境配慮の対象事業になりそうなものをリストアップした表をあわせてお持ちしたいと思います。取り組み易いもの・取り組み難いもの等についてご説明をさせていただくとともに、各課にも困り事を聞いておいて、それらについてご意見をいただきながら、こんなことが考えられるというのを今後の取組みの下地としてそれを持っていただくと良いかなと思います。

加藤副会長

くるくる市も様々な課題があると思いますが、クリーン葉山も海岸ごみを集めてもその時は綺麗になってもすぐに汚れてしまうという課題があります。その課題に対する、配慮宣言の取組みを含めた町の考えを教えてください。

伊藤環境部長

海岸ごみへの対策として、歩道橋に横断幕を貼ったり、商店街の街灯にポスターを貼ったりということはしています。あとはボランティアの方が資源になりそうなごみについては回収してくださっています。今年は天候が悪かったこともありますが、そうした取組みが功を奏し、前年よりも海岸ごみを減らすことができました。ただ、観光客の方を厳しく取り締まるのはなかなか難しいです。なるべくごみを捨てさせない、捨てられてしまう所への対策を考える必要があります。海岸ごみを、綺麗に一掃するのは難しいですが、軽減できるような取組みはしていかなければならないと思っています。マナー啓発ですとか、

ごみを出させない姿勢を強く打ち出していくという取り組みはしてみても良いかなと思います。

原科会長

ありがとうございました。次回はいつになりますか。

坂本環境課長

3月29日をお願いします。次回は、今回の審議に挙げた事項に加え、例年のとおり「はやまの環境」の今年度版を作成し、葉山町の環境の現状について各種データを用いてご説明をさせていただきますので、よろしくをお願いします。本日はありがとうございました。